キャロル・ギリガンと恋愛関係
――愛と支配をめぐって――

小西真理子（大阪大学）

キャロル・ギリガンの主著『もうひとつの声で』（1982）におけるケアの倫理をめぐる議論は、彼女の専門領域である心理学分野を超えて複数の学問分野に影響を与えるほどの広がりを見せている。しかし、その声が身近な人以外に届くことを予測していなかったギリガンは、「ほとんどは自分のためにその著書を書いた」と打ち明けており、その執筆と関連する出来事のひとつとして、彼女の伴侶であるジェームズ・ギリガンとの夫婦関係における危機があったことをほのめかしている。それは分析家の候補者となった夫が、「分析がうまくいくためには、妻とは分析の話をしないように」と命じられたことで、お互いに何でも話すという夫婦の習慣が破られたことに起因したものだった。さらに、ギリガンは、同じく「自分自身のために書いた」と宣言する、『もうひとつの声で』のもととなった論文「もうひとつの声で：女性の自己観と道徳観」（1977）を執筆した背景に、フロイト、エリクソン、コールバーグ、ピアジェ（加えて、おそらくその他の男性精神分析家たち）が女性を理解するのに苦労するのは、多くの女性たちが、彼らが発達の目印として支持する「分離」ではなく「関係性」という異なる前提から思考しているからではないかという理解に至ったことがあると公言しており、その理解は、ただ単に理論的な関心から導かれたわけではなく自身の経験に根ざしたものであったことを示唆している。

上記の内容は、『もうひとつの声で』においてなされた道徳性発達理論批判はもちろんのこと、同著においてケアの倫理と正義の倫理の対話の重要性や相補性が指摘されたことや、（先行研究でたびたび検討されてきたテーマでもある）ケアの倫理と正義の倫理の関係が「結婚（marriage）」の比喩で表現されたことに対するさらなる理解を導くだけにとどまらない。すなわち、ギリガンの愛をめぐる経験が、『もうひとつの声で』および、後に続く彼女のいくつかの単著と関連したものであるだろうこと、そして、ギリガンの思想において愛をめぐる議論が、実は非常に重要な位置を占めているであろうことを示唆するのである。

（「夫に捧げる」旨が添えられた著書でもある）古典的な悲恋物語が家父長制の物語であることを指摘したうえで、愛が家父長制への挑戦であると論じる『歓びの誕生』（2002）、愛する人とのすれ違いによる深い傷つきや、精神分析医との治療関係について描写した恋愛小説『キラ』（2008）、家父長制文化が二元論的かつ階層的であることを指摘し、女と男を切り離すものであると主張した『抵抗への参加』（2011）、そして、『抵抗への参加』の議論を引き継いだ『人間の声で』（2023）。これらの著書を概観していくと、「ケア」の倫理に焦点が当てられてきたギリガンの著作において、「愛」の関係（＝成人間の恋愛関係を中心としたもの）あるいは（恋愛およびそれにとどまらない）

「男女」の関係は、継続的に重要なテーマであり続けてきたことがわかるのである。ギリガンは愛の検討にあたって、決して健全な関係ばかりに焦点を当てるのではなく、関係の喪失（への恐怖）を通じた危うさや、病的と指摘されるようなトラウマ的経験とその影響も含み込んだものを見据えてきたように思われる。しかし、彼女のケアの倫理思想に垣間見られるように、自他未分化的なものや無私的（あるいは自己犠牲的）なものだと評価されるであろう愛の関係やそのあり方は、抵抗の声をもたないものと解釈されることで、端的に道徳的な問題と考えられているように読めることは否めない。

以上の点を踏まえて、ギリガンの愛の思想についてトラウマ的な出来事との関係に踏み込む仕方で分析したうえで、ギリガンの愛の思想からも拒絶されてしまいかねない支配・従属関係に内在する愛について、単に否定的に捉えるのではない仕方で検討し、そういった関係とケアの倫理との関連について、従来とは異なる角度から捉え直したい。

参考文献

Gilligan, Carol, 1982, *In a Different Voice: Psychological Theory and Women's Development*, Harvard University Press.（川本隆史・山辺恵理子・米典子訳 2022『もうひとつの声で――心理学の理論とケアの倫理』風行社）。

――2002, *The Birth of Pleasure: A new Map of Love* [Reprint], Knopf Doubleday Publishing Group; Reprint.

――2008, *KYRA: A Novel*, Random House.

――2011, *Joining the Resistance*, Polity Press.（小西真理子、田中壮泰、小田切建太郎訳 2023『抵抗への参加――フェミニストのケアの倫理』晃洋書房）。

――2023, *In a Human Voice*, Polity Press.